

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

11. 消化管、肝胆膵の疾患

文献

Satoh Y, Itoh H, Takeyama M. Effects of bakumondoto on neuropeptide levels in human saliva and plasma. *Journal of Traditional Medicines* 2009; 26: 122-30. 医中誌 Web ID: 2010089062, [J-STAGE](#)

1. 目的

麦門冬湯のヒト血漿及び唾液のニューロペプチド濃度に及ぼす影響の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT- cross over)

3. セッティング

大分大学病院

4. 参加者

25-30 才の非喫煙成人男子 5 名

5. 介入

群分けについての記載がないため、薬剤群での Arm の記載とした。

それぞれの薬剤の Washout は 4 週間

Arm 1: ツムラ麦門冬湯エキス顆粒 18 g

Arm 2: プラセボ (乳糖+麦芽糖)

6. 主なアウトカム評価項目

血漿と唾液中のサブスタンス P、VIP、ソマトスタチン、calcitonin-gene related peptide (CGRP)。

7. 主な結果

唾液中のサブスタンス P は Arm 1 では麦門冬湯投与後 40 分には mean±SD: 37.8±14.7 pg/ml、 $P=0.0317$ と有意に増加したが Arm 2 では 23.5±10.2 pg/ml であった。唾液中 CGRP も Arm 1 では投与 90 分には 65.5±34.4 pg/ml と Arm 2 の 24.8±4.5 pg/ml に比べ有意に増加した ($P=0.0079$)。唾液中の VIP 濃度は麦門冬湯投与後に変化しなかった。血漿中のサブスタンス P は 90 分後に Arm 2 の 23.3±2.8 pg/ml に比べ Arm 1 では 34.1±14.0 pg/ml と有意に増加した ($P=0.0127$)。血漿中の CGRP 及び VIP の濃度は麦門冬湯投与後に変化しなかった。Arm 1 では 20, 40, 60 分後の唾液量が 137%、126%、133%に増加したが、Arm 2 では唾液量の増加は認められなかった。唾液分泌量と唾液中のサブスタンス P 濃度には正の相関が認められた ($r=0.66$)。

8. 結論

麦門冬湯投与はヒト唾液中のサブスタンス P 及び CGRP を増加させる。麦門冬湯による唾液分泌量の増加はこれらのニューロペプチドの増加が一因であると考えられる。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本研究は麦門冬湯の唾液分泌量増加作用の一因としてサブスタンス P 及び CGRP の分泌増加をクロスオーバー試験により評価しており興味深い。麦門冬湯の作用機序として神経ペプチドの関与を示唆するもので、半夏厚朴湯の嚥下障害改善効果にはサブスタンス P の関与の報告もあり、さらなる薬理作用の解明が待たれる。

12. Abstractor and date

岡部哲郎 2010.12.27, 2013.12.31